

防衛大学校本科第27期学生及び理工学研究科第18期学生 入校式における学校長式辞（昭和54年4月5日）

本日、防衛大学校第27期学生及び理工学研究科第18期学生の入校式を挙行いたしますに当たり、有馬防衛政務次官^{注(1)}、榎原海上幕僚副長^{注(2)}、登張陸上幕僚副長^{注(3)}、生田目航空幕僚副長^{注(4)}、左近允統合幕僚会議事務局長^{注(5)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長^{注(6)}、小佐野商工会議所会頭^{注(7)}等多数の来賓の御臨席をいただき、防衛大学校といたしまして真に光栄に存じ、ここに職員並びに学生一同に代り、厚くお礼申し上げます。また全国各地から、はるばる御臨席をいただきました御父兄の皆様に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入学を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入学の新入生諸君、諸君は多くの受験者の中から、めでたく難関を突破されました。ここに、入校を心からお祝いたしますとともに、自ら志を立て、祖国日本の防衛に身をもって当たらんとの気概を秘めて、校門をくぐって来られたことに対し、心から敬意を表し、在校の全職員、全学生とともに、諸手を挙げて歓迎いたすものであります。

さて防衛大学校の教育目的は、防衛庁設置法第33条に明示されているところでありまして、それには「幹部自衛官となるべきものを教育訓



第4代学校長 土田 國保

注(1) 有馬元治

注(2) 榎原秀夫

注(3) 登張史郎

注(4) 生田目 修

注(5) 左近允尚敏

注(6) 横山和夫

注(7) 小佐野皆吉

練する」ことにあるとうたわれております。言葉をかえて申すならば、現代における士官候補生教育を目的とする大学であります。このため防衛大学校規則第5条は、「広い視野を開き、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を培う」ことを強調しておりますが、入校に当たり、私はとりあえず次の三点を今後の努力、研鑽の目標として、特に本科入校生諸君に要望いたします。

その一つは、将来幹部自衛官たるべき学生として、何よりもまず、人としての修養、錬成に努めなければならないということであります。防衛大学校は他の一般大学と趣を異にし、厳正な規律の下、全学生の団体生活、団体行動、団体訓練を基幹となし、「形から入って魂を入れる」すなわち「躰教育」を尊重、重視するのであります。これは将来、多数の部下を指揮統率するための幹部資質を養成する上で、極めて大切なことではありますが、諸君はまず積極果敢に団体生活の中に飛び込み、融け合い、実践を通して正しい躰を身につけ、幹部候補生たるにふさわしい容儀、態度の持主となってもらいたいのであります。と同時に、より重要なことは、これが形だけ、体裁だけに終っては断じてならないということでもあります。学生綱領に、「廉恥、真勇、礼節」とありますとおり、真の武人、真の紳士たるべく、諸君は人間として自らを深めてゆく修養努力を怠ってはなりません。真のリーダーシップの発揮は、諸君一人一人の人格の高さ、人間性の深さ如何によってはじめて可能となるものであります。小原台上4年間の貴重な青春の学生生活は、年齢的に申しましても、幅広く奥行の深い人間形成にとって最も大切な時期であります。諸君の自主積極的な向上心を強く期待するものであります。

第二に諸君は、大学生として、科学的な思考力と豊かな学識の涵養に努めていただきたいのであります。各国なかんずく自由世界の先進諸国における最近の士官教育は、一般大学教育の知的水準を前提とする趨勢にあるのでありますが、我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文・社会学系教育を教育の基幹としているのであります。殊に、基礎教育を重視し、これが習得を大切とするのでありますが、どうか諸君のこれからの勉学が本物になるよう、腰をすえた修業態度に徹していただきたいのであります。将来の有能な幹部自衛官は、戦術、戦技のエキスパートであるべきことは当然のことながら、広い視野と豊かな教養に裏付けられた高度の学識、学力の保有者でなければ、真に役に立たない時代が来ていることを、我々は忘れてはならないのであります。

第三に諸君は、自衛隊の必要とする基礎的訓練に励むとともに、必ず何等かの校友会活動に参加して、大いに身体を鍛え、体力増進に努められたいのであります。申すまでもなく、優秀な自衛官たるには、いかなる極限状況の下にあっても、良好なコンディションをもって、最後まで粘り強く任務が遂行できる気力・体力の持主でなければなりません。時あたかも20歳前後、心身の鍛練には絶好の機会であります。生涯忘れることのない小原台生活の思い出にもつながるこれら校友会活動において、諸君の勇戦奮闘を期待するものであります。

次に、理工学研究科に入学された諸君に申し上げます。諸君はこのたび特に選ばれて、本校の理工学研究科に入られ、高度な科学技術の修得に専念されることになりましたことを、まず心からお祝い申し上げます。諸君は、かつてそれぞれの大学において本科教育を履修されたのでありますが、その後、配置先の自衛隊の各種部隊等では、それぞれ任務に忙殺され、落ち着いて机に向う暇も決して多くはなかったことと存じます。このたび防衛大学校において高度な科学技術の研鑽を積まれることは、過去の蓄積をよみがえらせ、その上に大きな飛躍と自信をもたらす絶好の機会であり、諸君自身の将来の発展のためにも慶賀すべきことであると信じます。

ひるがえって、今や世界各国は、それぞれ国力を傾けて国防に関わる科学技術の充実に努めているのであります。東西の冷戦下、その一步の立ち遅れは取り返しのつかぬ結果を招きかねない厳しい現実に思いをいたしますとき、我が国の今後の防衛科学技術の向上のため、諸君の一層の努力と精進を求めてやみません。

頃は桜花爛漫の春4月、希望に満ち溢れるこの小原台上にあつて、来賓、御父兄の各位とともに、今後の諸君の努力研鑽を期待し、その成長を心からお祈りいたしまして、私の式辞といたします。